

# 令和7年度 富山県農業用水路事故防止対策推進会議

## 説明資料

日時：令和8年2月2日（月）10:00～

場所：富山県防災危機管理センター研修室5-B、C



# 目次

(1) 令和6年度推進会議における意見と対応方針について	… P 1
(2) 令和7年度の対応状況について	… P 3
○ 農業用水路転落事故の点検（発生状況）	… P 4
○ 事故防止対策の検討	… P 5
○ その他事故防止対策に関する施策（官民協働事業レビュー）	… P10
○ 安全対策に関するアンケート及び事故状況の分析結果	… P11
(3) 令和8年度対応方針（案）	… P17



## (1) 令和6年度推進会議における意見と対応方針



# (1) 令和6年度推進会議における意見と対応方針について

## ■前回(令和7年2月5日)の「富山県農業用水路事故防止対策推進会議」における意見と対応方針

委員名	ご意見	対応方針
星川委員	「転落事故件数0件」を目指すのであれば、これまで以上に事故分析の解像度を上げる必要。	転落死亡事故の事故原因の分類、地域別の発生状況について整理
	転落事故の原因について、明確に特定できないとしても更に掘り下げていき、今後の対策に活かしていく必要。	事故情報を基に事故原因を整理
大西委員	転落事故を「自分事」に転換させることが重要であり、生活の中で農業用水路と「どういう形」で「接点」があるのかを分析し、事例を提示するなどして周知していく必要。	ヒヤリ・ハッとした時の行動を整理
瀧本会長	事故原因を踏まえた注意喚起ができれば良い。	転落死亡事故の事故原因の分類、地域別の発生状況について整理

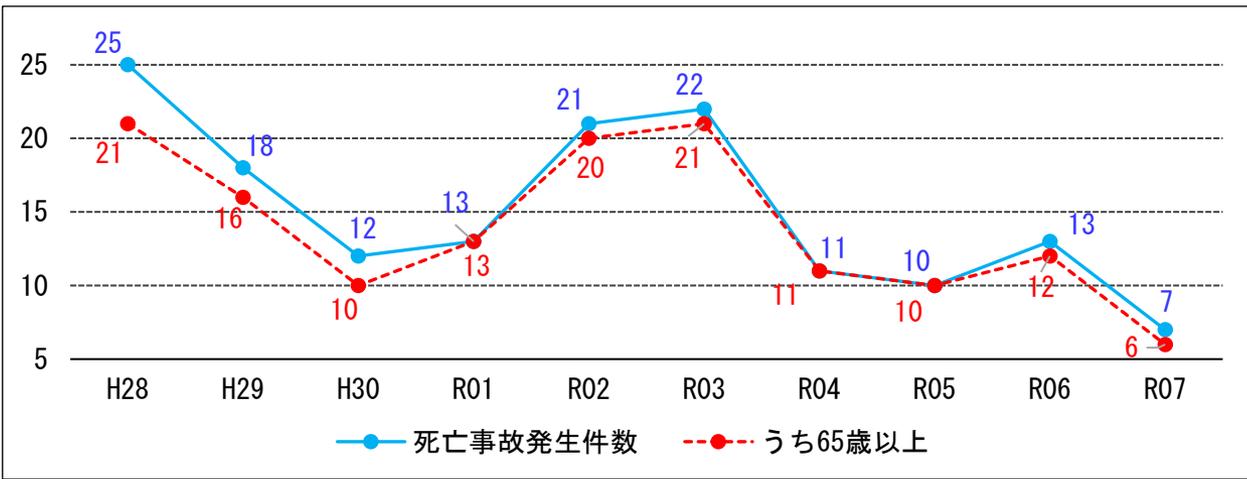
## (2) 令和7年度の対応状況



# ○農業用水路事故の点検（発生状況）（R8. 1. 16時点）

○本県における転落死亡事故(令和7年度までの10年間)の発生件数は152名で、65歳以上の高齢者は、全体の9割以上となっている。  
 ○月別事故件数を見ると、年度によってバラツキがあるが、春から夏及び冬期間に事故が発生する傾向が見られる。

□過去10ヶ年の転落死亡事故件数の推移



令和7年までの10年間で、65歳以上の高齢者の事故件数は140件

「富山県農業用水路安全対策ガイドライン」策定後の転落死亡事故者の平均年齢は、75歳以上で後期高齢者の事故が多い。

R2年度:77.6歳、R3年度:79.8歳、  
 R4年度:82.4歳、R5年度:84.7歳、  
 R6年度:79.3歳、R7年度:76.6歳

□年別月別転落死亡事故発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	うち、65歳以上
R7	2	1	1	0	0	0	2	0	0	1			7	6
R6	1	3	3	3	2	1	0	0	0	0	1	0	14	13
R5	0	3	2	0	1	2	0	0	1	1	0	0	10	10
R4	0	4	0	0	2	0	0	0	1	1	3	0	11	11
R3	0	3	2	2	1	1	3	1	3	0	1	5	22	21
R2	0	2	0	5	2	0	2	0	5	3	2	0	21	20
R1	0	2	3	1	0	1	1	0	2	0	1	2	13	13
四半期計	32			24			21			21				

# ○事故防止対策の検討【ハード、セミハード対策】

○土地改良区、市町村からの要望により、幅1m程度の水路を中心に、国庫補助事業を活用したハード対策(転落防止柵等の設置)を実施。  
 ○地域におけるワークショップの実施により作成した「危険箇所マップ」に基づき、セミハード対策(簡易な転落防止施設等の設置)を実施。

## ハード対策の状況

- 農村地域防災減災事業（国補助事業）  
 施設管理者主体（土地改良区）の安全点検パトロール等により、危険箇所へ転落防止柵を整備 ⇒R7年度 7路線 約1.3km
- 県単独農業農村整備事業（防災福祉対策事業：安全施設整備型）  
 国補助事業に該当しない危険箇所を県単独事業により、転落防止柵等を整備 ⇒R7年度 12路線 約1.7km
- 転落防止柵設置延長（単位：km）

設置年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計
設置延長(km)	15.8	20.2	6.9	1.5	4.5	3.0	51.9



小矢部市芹川新内



富山市花木地内



富山市半屋地内



入善町坪野地内

## セミハード対策の状況

- 農業用水路危険箇所応急対策事業  
 簡易な転落防止施設等を県単独事業で整備 ⇒R7年度 20地区



鋼製網蓋の設置  
(入善町小摺戸)



簡易柵、注意喚起看板の設置  
(富山市城村)



樹蓋の設置  
(砺波市鹿島)

新川管内		富山管内		高岡管内		砺波管内	
朝日町	山崎新町内会	富山市	城村地区	射水市	本江	砺波市	鹿島地区
入善町	小摺戸町内会	富山市	広田一区	射水市	川口	砺波市	太田2区・3区地区
黒部市	寺坪・中村・大橋町内会	富山市	坂本	射水市	宮袋	南砺市	西明地区
魚津市	大海寺野2区町内会	富山市	水橋桜木	小矢部市	清水	南砺市	福光地区
滑川市	柳原	立山町	岩峠野			南砺市	祖谷地区
		立山町	日中柴山				

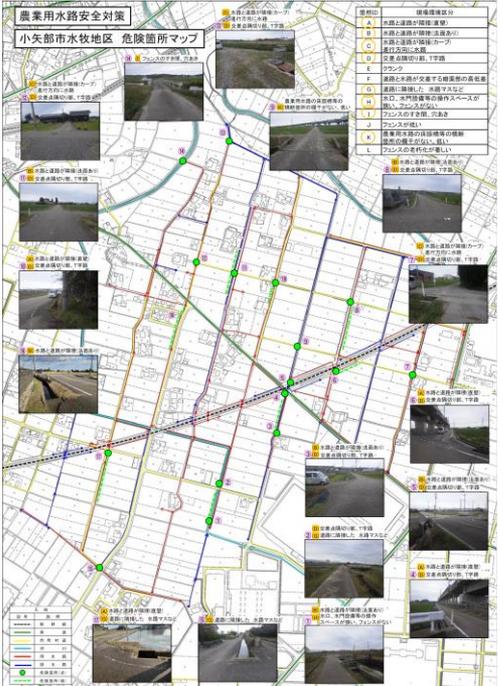
# ○事故防止対策の検討【ソフト対策：ワークショップ、ファシリテータ養成研修】

○地域内の危険箇所を総点検し、危険箇所をまとめた「危険箇所マップ」を作成し、地域内で情報を共有する「ワークショップ」を実施。ワークショップには、多様な主体が参画し、様々な視点から住み慣れた地域の危険箇所を再認識している。

○ワークショップには、参加者の意見を引き出し、活発な議論へと導くファシリテータ(進行役)の存在が非常に重要。ワークショップを実施しやすい環境を構築するため、ファシリテータ養成研修を実施。従来、1会場で行っていた研修を今年度は、県内2会場で実施。

## ■ワークショップ

○小矢部市水牧地内の事例  
 実施日：令和7年12月7日  
 場 所：水牧公民館ほか  
 参加者：自治会、福寿会、児童クラブ、多面組織、土地改良区、小矢部市、県  
 ※危険箇所マップは、公民館に掲示し、情報共有を行っている



危険箇所マップ(小矢部市水牧地内)



マップ作成打合せ



現地調査状況

## ■ファシリテータ養成研修

例年、県内1会場で実施していたが、ファシリテータ養成を強化するため、今年度は県内2会場で研修を実施。  
 実施日：令和7年10月6日(砺波市柳瀬地内) 18名出席  
 10月7日(舟橋村海老江地内) 20名出席  
 ※令和6年度は22名出席

### 砺波市柳瀬地内



フィールドワーク



座学

### 舟橋村海老江地内



フィールドワーク



座学

## ■R7ワークショップ実施地区

市町村	地区名	市町村	地区名	市町村	地区名	市町村	地区名
朝日町	細野町内会	滑川市	中野島町内会	立山町	蔵本新	射水市	小島
入善町	新屋町内会	富山市	八尾町井田	高岡市	戸出大清水	砺波市	中野
黒部市	山田新・吉宮町内会	富山市	水橋北馬場	氷見市	宇波	南砺市	館
魚津市	横枕町内会	舟橋村	佛生寺	氷見市	加納	南砺市	広谷
滑川市	野町町内会	上市町	田島野斎神新	小矢部市	水牧		

# ○事故防止対策の検討【ソフト対策：強化期間における県警との危険箇所点検（全3期間）】

○農業用水路に近づく機会が多くなる3期間（春：4/20～5/20、秋：8/20～9/20、冬：12/1～12/31）に設定している「農業用水路転落事故防止強化期間」において、富山県警察と合同で危険箇所点検を実施。  
 ○各期間、各センター管内の1箇所を実施し、年間12箇所（これまで、延べ28箇所）において、県警と合同パトロールを実施。地域住民と県警で危険箇所の情報共有及び安全施設の設置状況の確認等を実施。

## ■実施状況



転落防止柵隙間の確認  
 (砺波市太郎丸内)春



簡易な注意喚起看板の設置  
 (滑川市中野島地内)秋



安全柵の設置状況の確認  
 (富山市八尾町杉原地内)冬



危険箇所の確認  
 (南砺市高瀬地内)秋

## 各警察署との合同点検実績

管内	警察署	強化期間における警察連携						
		R5 秋	R6 春	R6 秋	R6 冬	R7 春	R7 秋	R7 冬
新川	入善署				○			
	黒部署			○				○
	魚津署	○				○		
	滑川署		○				○	
富山	上市署		○				○	
	富山中央署				○			
	富山南署	○				○		
	富山西署			○				○
高岡	射水署			○				○
	高岡署		○				○	
	氷見署	○				○		
	小矢部署				○			
砺波	砺波署			○	○	○		○
	南砺署	○	○				○	

## 合同点検時の警察官コメント

○**転落事故は、自宅近くで発生することが多い。**通り慣れている場所でもあり、ソフト対策が特に重要と思っている。  
 ○**気象によって、用水路の状況も変わってくる**ので、**様々な状況を想定した危険箇所を考えることが大切。**

# ○事故防止対策の検討【ソフト対策：関係機関等との連携①】 イベント等参加

- 県高齢福祉課が所管しているイベント、会議において、来場者や出席者に対して、本県の農業用水路転落事故の発生状況や農業用水の特徴について説明。
- 富山県警察の行事において、昨年に引き続き、入場者への農業用水路転落事故への注意喚起を実施。
- 四季防災館(富山市惣在寺)のリニューアルにあたり、農業用水路の転落事故について注意喚起していくこととなっている。

## ■高齢福祉担当機関との連携

○認知症にやさしい地域づくり推進キャンペーン2025（県高齢福祉課）  
日時：令和7年9月13日 10:00～16:00  
場所：アピアショッピングセンター  
内容：認知症及び若年性認知症についての理解を深め、認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域づくりを推進する取組。  
展示ブースを設置させてもらい、本県の農業用水路転落事故の発生状況、農業用水路の特徴をPR。



「用水だ！くん」による広報



展示ブース

## ■事故防止、安全安心担当機関との連携

○おまわりさんの演奏とドリルの祭典（富山県警察）  
日時：令和7年9月21日 13:30～  
場所：オーバードホール  
内容：富山県音楽隊の演奏を通じて、防犯に対する意識を高めてもらうことを目的に毎年実施している。今年度は、広報グッズ（お面、シール）を配布しながら、農業用水路の転落事故防止対策に関する広報啓発活動を実施。



「用水だ！くん」「立山くん」による広報

○四季防災館のリニューアルの検討（県消防課）  
内容：令和8年度にリニューアルオープンを目指す四季防災館において、本県における農業用水路の特徴、転落事故の状況について展示を予定しています。  
また、転落事故への理解を深めるため「クイズ」を活用した広報活動も併せて行うことを検討しています。

【休館R7.12～】体験型学習施設「四季防災館」のご案内

四季防災館はリニューアル工事に伴い、令和7年12月1日から休館します。詳しくは四季防災館ホームページをご確認ください。

# ○事故防止対策の検討【関係機関等との連携②】 県政世論調査

○県民の農業用水路への転落事故に関する意識を把握し、今後の注意喚起活動に反映させることを目的に、『県政世論調査』に農業用水路転落事故に関する質問を掲載し、調査を実施。

## ■広報担当機関との連携

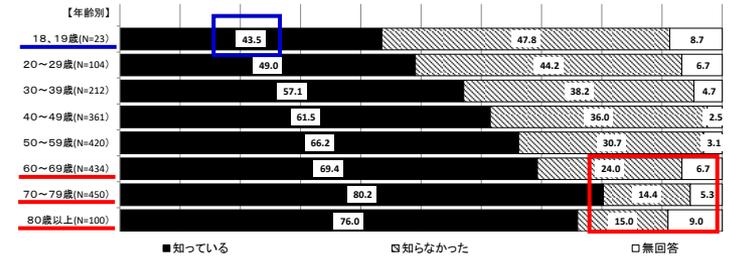
【県政世論調査とは】(県広報課)  
 ・県政の各分野について、県民の関心・要望をとらえ、施策立案の参考資料とするために、昭和45年以降、毎年実施しているもの。

### R7調査の概要

調査対象	県内に居住する満18歳以上の男女4,000人
調査期間	令和7年8月8日～9月16日
調査方法	郵送調査
回収数(率)	2,143人(53.6%)

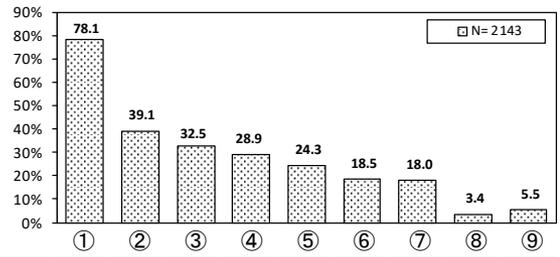
## 設問と調査結果

問1 転落死亡事故に遭う方は、9割以上が65歳以上の高齢者であることを知っていますか。

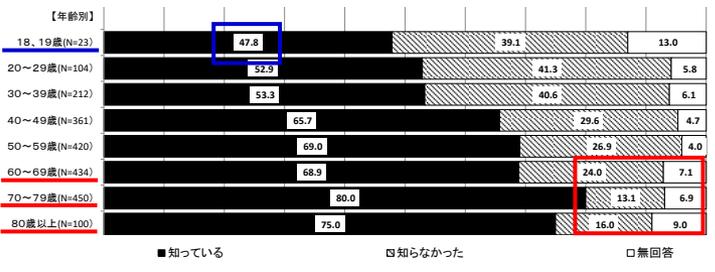


問3 転落死亡事故を未然防止するために、どのような取組みが効果的だと思いますか。

- ① 転落防止柵等のハード対策
- ② 看板設置等のセミハード対策
- ③ 高齢者への講習会等の実施
- ④ 地域の危険箇所マップ作成と周知
- ⑤ テレビ、ラジオでの広報活動
- ⑥ 「声かけ」を呼びかけるSNS広報
- ⑦ 新聞、広報誌等の紙媒体での広報
- ⑧ その他
- ⑨ 無回答



問2 転落死亡事故は、身近で小規模な水路での発生が全体の半数以上を占めていることを知っていますか。



年齢別	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
18、19歳 N= 23	82.6	56.5	17.4	17.4	13.0	4.3	13.0	-	8.7
20～29歳 N= 104	80.8	37.5	33.7	14.4	26.0	19.2	19.2	-	7.7
30～39歳 N= 212	80.7	37.7	28.3	20.3	17.9	16.5	12.3	4.2	5.7
40～49歳 N= 361	84.2	35.5	30.5	26.6	25.8	20.2	17.5	4.7	3.0
50～59歳 N= 420	79.0	37.9	35.0	25.7	24.0	17.9	16.4	4.0	3.3
60～69歳 N= 434	76.7	41.7	34.1	32.0	25.1	18.7	19.1	2.8	6.5
70～79歳 N= 450	72.4	39.6	32.4	36.2	24.2	17.3	18.4	3.6	6.9
80歳以上 N= 100	74.0	45.0	37.0	40.0	29.0	24.0	27.0	1.0	9.0

転落死亡事故に「高齢者が多い」「身近な小水路で発生」していることについて、年齢が上がるにつれて認知度が高くなっているが、**「18、19歳」で「知っている」のは半分以下となっており、転落死亡事故の多い60歳以上の2～3割が「知らなかった」と回答。**転落事故の広報活動は、「孫世代から高齢者世代」への「声かけ」を行う方法も考えていることから、まずは、若い世代へ周知していきたい。

事故の未然防止には「①転落防止柵や水路の蓋掛け等(ハード対策)」が最も効果的であるとの結果となった。一方で、**事故発生割合の高い60歳以上の3割以上が、「③高齢者への講習会等」「④地域の危険箇所マップ作成と周知」などのソフト対策が効果的と回答**していることも踏まえ、ハード対策、ソフト対策を総合的に実施していきたい。

# ○その他事故防止対策に関する施策（官民協働事業レビュー）

○本県では、農業用水路への転落死亡事故が毎年発生していることから、「富山県農業用水路安全対策ガイドライン(以下、「ガイドライン」)」を策定し、ソフト・ハード両面から安全対策を総合的に実施している。転落死亡事故件数は、以前と比較して減少傾向にあるが、本県の目標である「転落死亡事故件数0件」に向けて、『官民協働事業レビュー』で県民に幅広くご意見を伺ったところ。

## ■農業用水路安全対策への県民の評価

【官民協働事業レビューとは】(県人事企画室行政運営課)

・既存事業の改善を図り、予算のより効率的・効果的な執行を担保するとともに、職員の意識改革を進めるため、県民との協働による事業レビュー(評価)を実施するもの。

➢ この取組みは、**事業担当者と委員や県民が個々の事業の課題を共有し、ともに解決策を考える場**

・レビューは、県民評価者(19名)、外部の識者や経験者である委員(4名)、コーディネーター(1名)、事業担当者により構成され、事業担当者による事業の概要や主なポイントの説明に対して、委員が県民評価者が評価するために必要な論点を様々な視点から質問していく。この議論を聞いて、県民評価者は、事業の存続について評価を行うもの。

## レビューの評価結果

日時: 令和7年8月29日(金) 12:55~14:05

場所: 県民会館304号室

説明: 農業用水路安全対策については、ソフト対策を中心に説明を展開。

### 県民評価者の評価

				県民評価者数	19
評価区分	行政の関与不要	役割分担見直し	抜本的改善	一部改善	現行どおり・拡充
	0	0	6	<b>10</b>	3 (現行2、拡充1)

県民評価者の主なコメント

- ・死亡事故だけでなく、怪我の転落事故の要因分析に力を入れ、情報提供や実際にあった場所のマップの公開、安全対策の効果の検証が必要ではないか。
- ・**死亡事故だけでなくケガの発生案件も把握すべきではないか。**
- ・家族から高齢者への注意喚起を目指しテレビCMを放映しているとのことだが、若年層はテレビを見る人が少ない。SNSなどでも情報を届ける工夫をもっと考えると良いと思う。
- ・**ワークショップは効果的だと思うが、どこで行うかが重要。**

(参考)委員意見: 農水部だけでなく、他部局と連携した体制整備が必要

## レビュー結果を踏まえた対応

レビューでの県民評価者の意見を踏まえ、農林水産部のイベントで転落事故(怪我)に関するアンケートを実施。

日時: 令和7年10月25日(土)、26日(日) 各10:00~16:00

場所: 富山県産業展示館(富山市友杉1682)

調査方法: 『とやまグルメ・フードフェス』において、来訪者にアンケート調査を実施。

1,200名以上の有効回答。**2割以上が転落経験があり、その内10代までが6割程度**であることが判明。更に転落経験者の約85%が自宅周辺、通学路等の身近な場所で発生していた。  
➢ 高齢者への広報に加え若い世代への広報を検討したい。

### 転落の経験

項目	回答数	割合
転落したことはない	965	78.1%
転落したことがある	<b>271</b>	<b>21.9%</b>
有効回答数	1,236	

### 転落した場所

項目	回答数	割合
A 家の周り	97	56.7%
B 通学・通勤路	48	28.1%
C 出かけた先(知らない土地)	17	9.9%
D その他	9	5.3%
有効回答数	171	

### 転落者の年齢別割合

項目	回答数	割合
~10代	<b>158</b>	<b>58.3%</b>
20代	9	3.3%
30代	27	10.0%
40代	26	9.6%
50代	21	7.7%
60代	15	5.5%
70代~	15	5.5%
有効回答数	271	

※アンケート一部抜粋

## ○事故状況及び安全対策に関するアンケートの分析結果（事故状況分析①）

- ガイドラインの検討を始めた令和元年度から6年度までに発生した農業用水路への転落死亡事故(91件)を対象に事故の分類に分けて事故状況の分析を実施。転落死亡事故の特徴や傾向等を把握し、事故を未然に防止することを目的としている。
- 事故の分類の分け方は、以下のとおりとしている。

### ■事故の分類

○転落死亡事故を事故情報から5つの分類に分ける。

#### ①農作業中の事故

農作業中の事故とし、水管理に係る作業、作業するために移動する農道、畦畔、溝畦等からの転落事故を対象とする。  
【行動内容：草刈り、土砂上げ、農薬散布、定植、収穫作業、水管理操作、水路の維持管理等】

#### ②自宅付近の事故

生活活動中で自宅等の敷地に隣接している農業用水路への転落事故を対象とする。  
【行動内容：庭仕事、自宅への出入り、除雪、見回り、荷物運搬等】

#### ③認知症が疑われる方の事故

事故情報から認知症と考えられる方の転落事故を対象とする。  
【行動内容：深夜等の無断外出、高齢、長距離の移動、立ち入りを想定していない場所での転落等】

#### ④非農作業中の事故

上記①、②、③に該当しない、日常生活行動中の転落事故を対象とする。  
【行動内容：散歩、通勤・通学、目的への移動等】

#### ⑤状況不明の事故

収集している事故情報では状況を判断できない事故を対象とする。

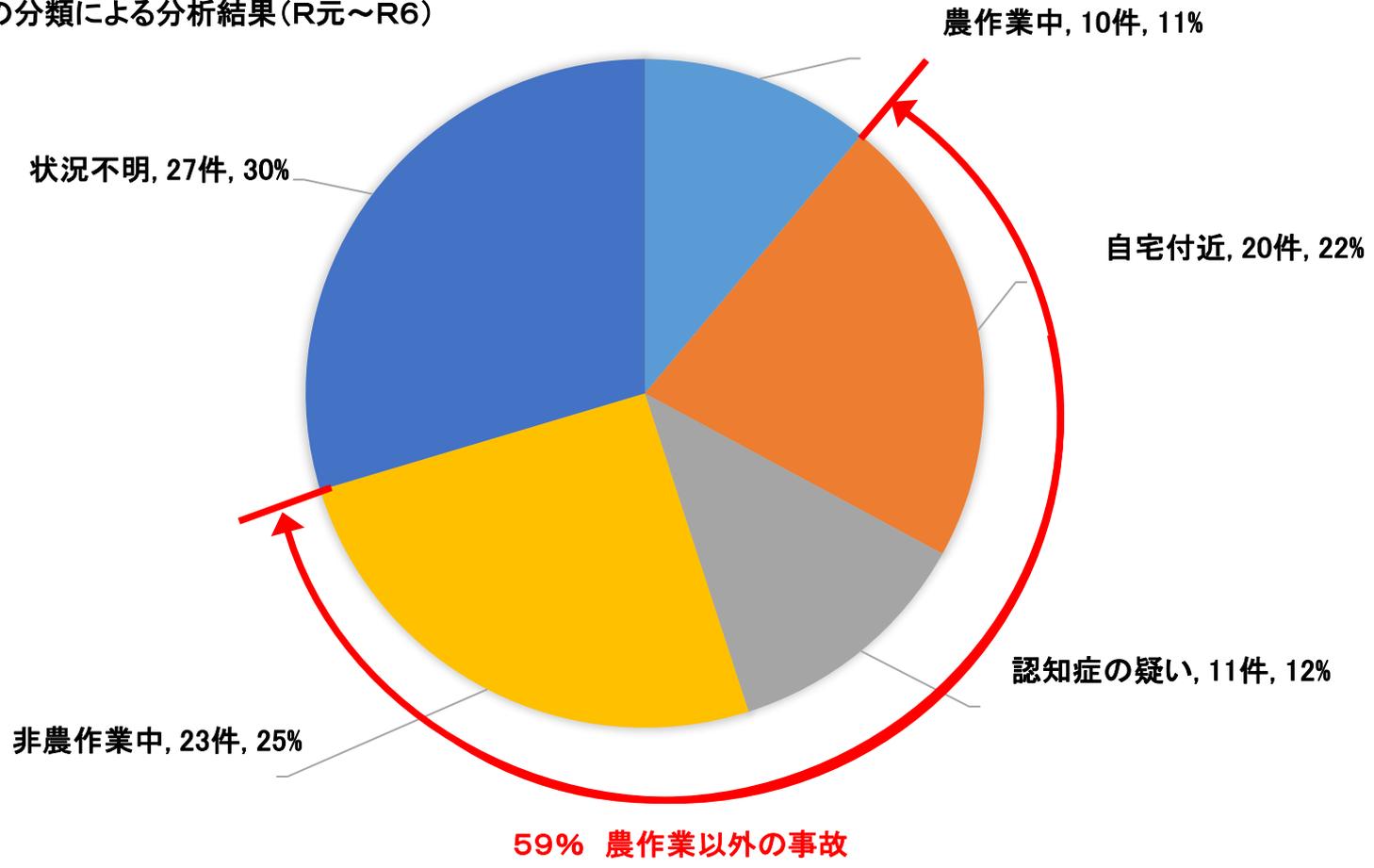
# ○事故状況及び安全対策に関するアンケートの分析結果（事故状況分析②）

○全91件の転落死亡事故のうち、事故原因が分かる分類として、日常の生活行動として整理した「非農作業中」が23件で全体の25%を占め、続いて「自宅付近」が20件と全体の22%を占めた。「農作業中」は10件で全体の11%となり、最も少ない割合となっている。

○最も多かったのは、「状況不明」で27件と全体の30%となっている。また、事故情報から認知症が疑われる方の事故が11件と全体の12%を占めていることが判明した。

- 農業用水路への転落死亡事故の過半数以上(59%)が、農作業に起因しておらず、生活事故としての性格を持つことが判明した。
- 今後、更なる事故分析を向上させるためには、「状況不明」の事故を減少させることが重要であるが、転落死亡事故は、事案によっては、転落した場所の特定も困難であるため、そのこと等に起因しているものと考えられる。
- 認知症が疑われる方の事故が一定割合存在していることが分かった。今後更に高齢化率が進行することが考えられるため、近い将来、高齢者になる「プレ高齢者」も含めて、関係機関と連携した対策を検討していきたい。

■事故の分類による分析結果(R元～R6)



# ○事故状況及び安全対策に関するアンケートの分析結果（事故状況分析③）

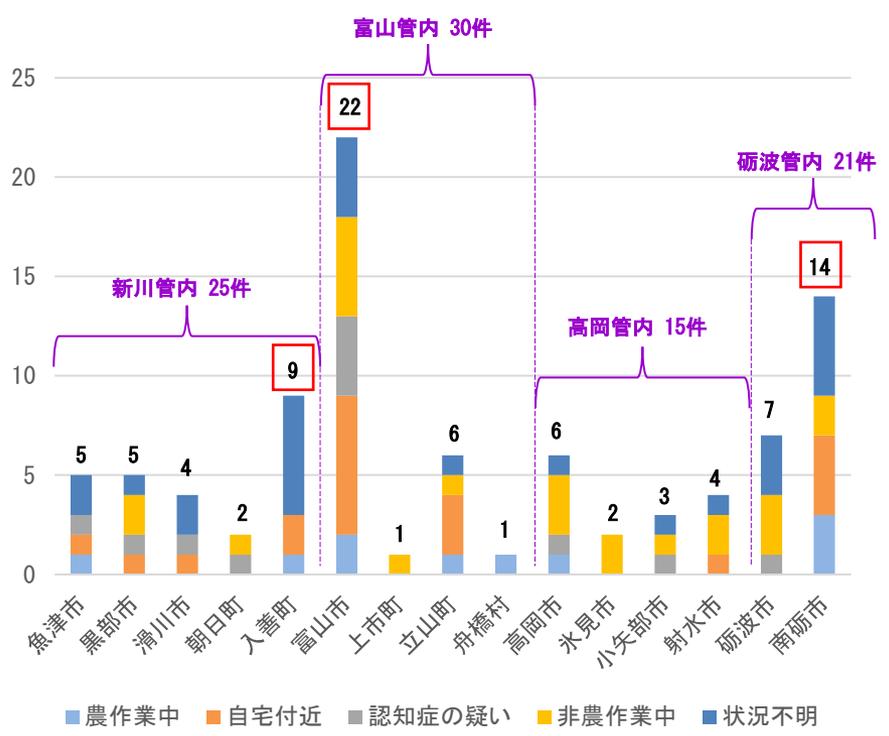
○各農林振興センター管内別に、事故の発生状況に分けて整理したところ、県の東西で事故の傾向が違っていた。

- ・新川、富山管内では、「自宅付近」が最多（新川の50%、富山の47%）となっており、次いで日常の生活行動として整理した「非農作業中」（新川の30%、富山の33%）となっている。
- ・高岡、砺波管内では、「非農作業中」が最多（高岡の80%、砺波の41%）で、また、砺波管内では、「自宅付近」でこの管内の33%を占める。

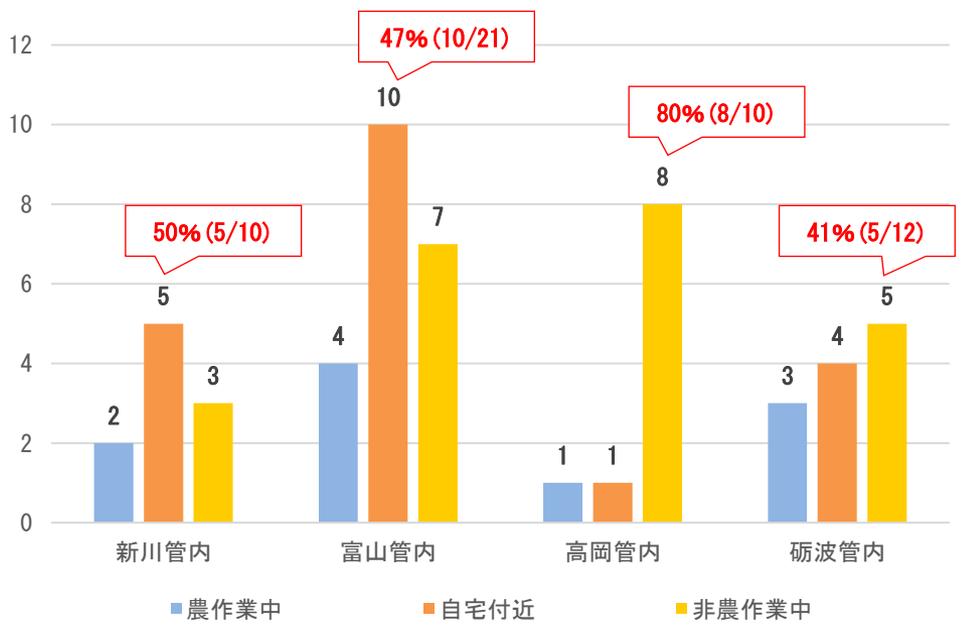
○事故発生件数を見ると、富山市、南砺市、入善町、砺波市で事故の発生が多い。

➢管内別の事故原因に応じた広報活動を検討していく必要があると考える。また、事故件数の多い市町村においては、これまでのワークショップの実施状況を考慮し、当該予算の配分の検討が必要と考える。

■市町村別の事故発生件数(R元～R6)



■管内別、事故分類別の事故発生件数(R元～R6)（「状況不明」「認知症の疑い」を除く）



# ○事故状況及び安全対策に関するアンケートの分析結果（アンケートの分析①）

○令和元年度に「富山県農業用水路安全対策ガイドライン(以下、「ガイドライン」)」を策定し、ハード・セミハード、ソフト対策を総合的に進めてきた結果、農業用水路への転落事故件数は、ガイドライン策定以前は、年間20件前後であったが、近年では、年間10件程度となっている。

○一方で、依然として転落事故が無くなる状況が踏まえ、県では、ガイドラインに基づく取組を検証し、より効果的な取組を実施していくため、土地改良区等、市町村、県の関係機関の担当者にアンケート調査を実施。

## ■調査内容、調査対象及び回答数

- 調査内容
  - ・記入者について（居住地、年代、性別、水路保全活動への従事の有無、水路への接近頻度等）
  - ・事故防止啓発の認知度と農業用水路への意識
  - ・農業用水路への転落経験及びヒヤリ・ハッとした経験
  - ・居住エリアにおける事故防止対策の取組状況
  - ・自由回答（転落事故防止に対する意見、提案等）
- アンケート調査対象
  - ・県内63土地改良区及び3土地改良区連合の役員、総代、職員
  - ・県内15市町村等 関係職員
  - ・県関係職員（4農林振興センター等、農村整備課、農村振興課、農業技術課、道路課）
- 回答数 1,737人

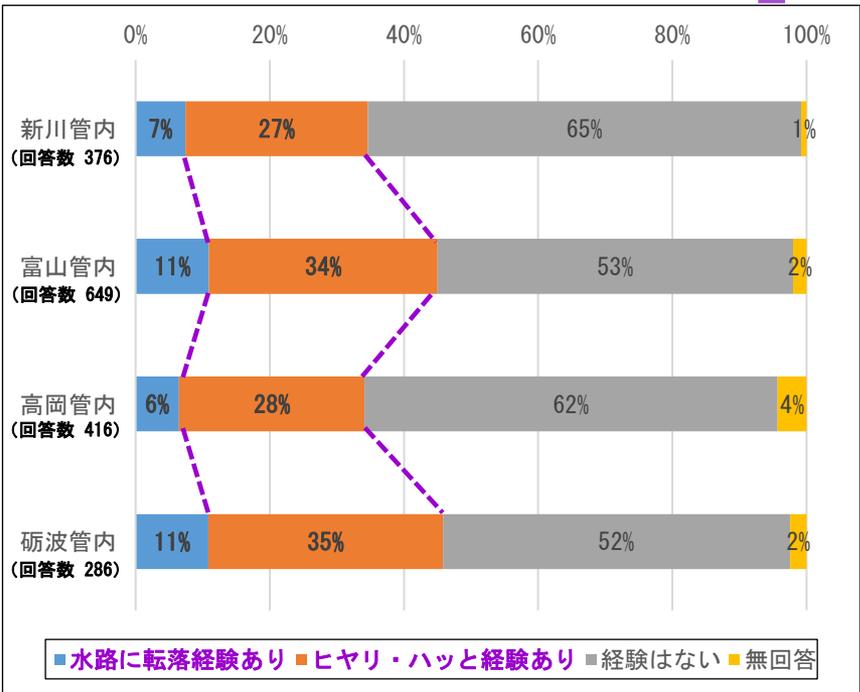
## ■記入者の状況（基本情報）

区分	新川管内					富山管内				高岡管内				砺波管内		居住地 無回答	計
	魚津市	黒部市	滑川市	朝日町	入善町	富山市	上市町	立山町	舟橋村	高岡市	氷見市	小矢部市	射水市	砺波市	南砺市		
全体	63	90	100	55	68	506	65	60	18	159	67	67	123	140	146	10	1,737
男性	45	71	81	37	57	396	50	55	14	108	53	52	91	113	109	2	1,334
女性	18	18	18	18	11	100	12	4	4	46	13	13	29	27	36	4	371
性別無回答		1	1			10	3	1		5	1	2	3		1	4	32
計	63	90	100	55	68	506	65	60	18	159	67	67	123	140	146	10	1,737

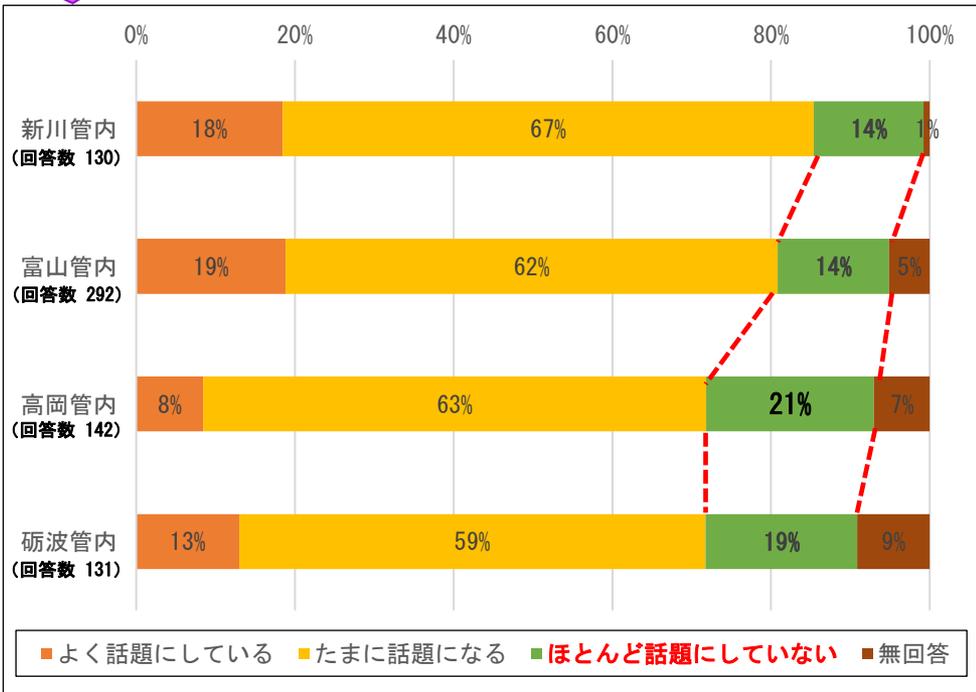
# ○事故状況及び安全対策に関するアンケートの分析結果（アンケートの分析②）

○アンケート「過去5年間で水路への転落経験、ヒヤリ・ハットと経験の有無(全回答1,727)」について、「水路への転落経験」、「ヒヤリ・ハットと経験あり」と回答した割合が3～4割であった。この回答(695件)を抽出し、アンケート「転落事故を話題にするか」をクロス集計したところ、1～2割の方が、危険な経験をしているにもかかわらず、「転落事故を話題にしていない」ことが判明した。  
 >「危険な経験をしてでも転落事故を話題にしない」方がお住まいの地域へは、今後、ワークショップ開催を呼びかけていき、実情を共有するとともに、事故防止への取組みについて理解を得ていきたいと考える。

アンケート3.(1)  
 過去5年間で、水路への転落経験、ヒヤリ・ハットと経験はありますか？



■危険な経験がある方の「転落事故を話題にするか」の回答

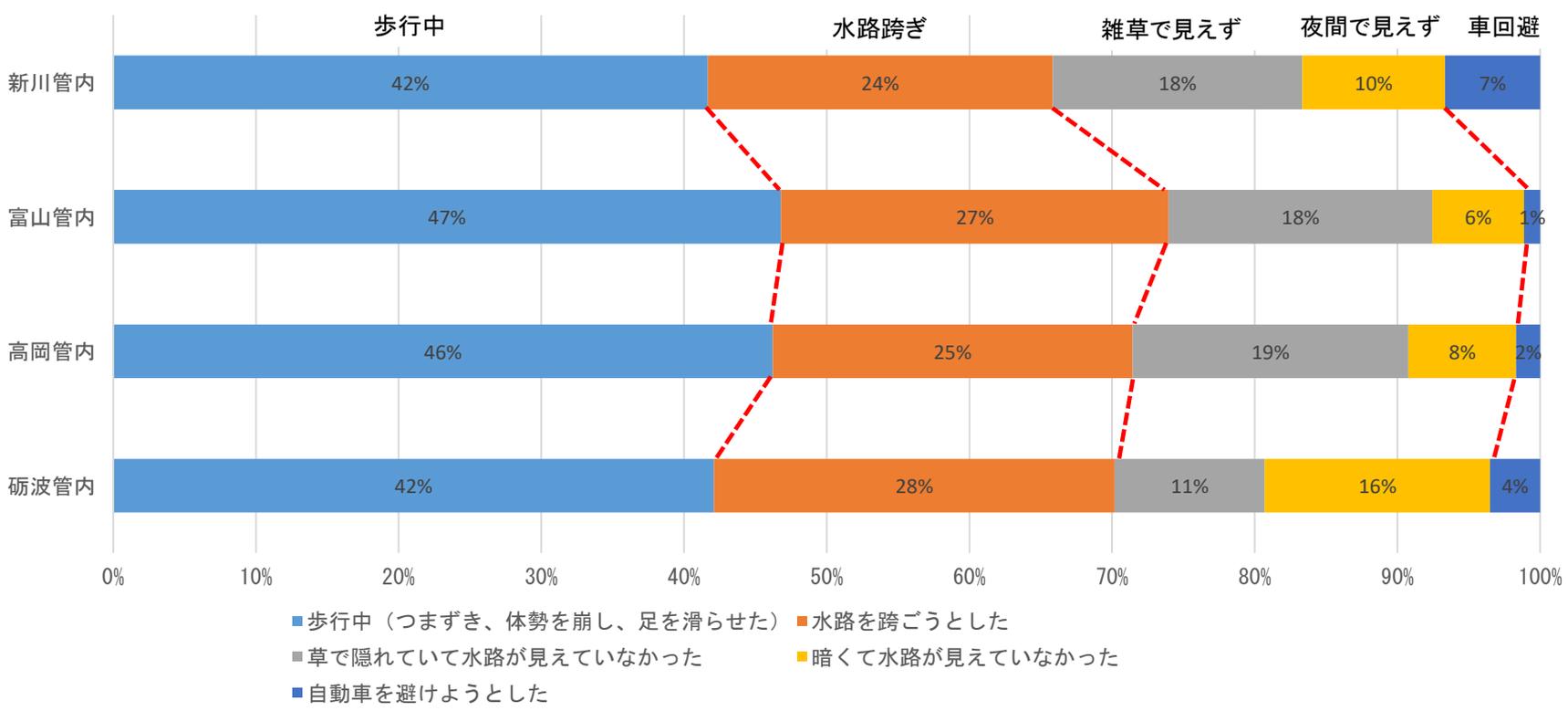


# ○事故状況及び安全対策に関するアンケートの分析結果（アンケートの分析③）

○転落事故を「自分事」に転換させることが重要であることから、生活の中で農業用水路と「どういう形」で「接点」があるか整理するため、アンケート「水路へ転落したときまたは、ヒヤリ・ハッとした時のきっかけとなった動作や原因は何ですか？」を見たところ、最多回答が「歩行中にバランスを欠く体勢になったとき」次いで、「水路を跨ごうとしたとき」となり、全体の約6割を占めている。また、農業用水路の存在を認識できないために転落等したとの回答が3割弱を占めており、県内の4管内において同様な傾向が見られた。

➤今回の集計結果を示しつつ、改めて、農業用水路に近づく必要がある場合には、注意を促すとともに、農業用水路の視認性を高める対策等を行うセミハード対策の効果的な整備について周知していきたいと考える。

アンケート3.(3)  
転落したまたは、ヒヤリ・ハッとした時、きっかけのなった動作や原因は何ですか？



### (3) 令和8年度対応方針（案）



### (3) 令和8年度対応方針(案)

#### 【農業用水路事故防止対策におけるPDCAサイクルの活用】

- 事故防止対策の実施にあたっては、対策の効果や問題点を継続的に把握・検証し、必要に応じて対策を改善・充実。
- PDCAサイクルを活用することにより事故防止対策を強化。

#### Plan (計画)

地域住民、土地改良区、市町村、県が連携して、農業用水路への転落事故防止に向けた意識啓発や必要な事故防止対策の推進



農業用水路の転落死亡事故件数 0件

#### Do (実行)

- 令和7年度の取組
  - ハード・セミハード対策
    - ・要望に応じたハード対策(転落防止柵 3.0km)
    - ・ワークショップで検討されたセミハード対策(県内20地区)
  - ソフト対策
    - ・高齢福祉担当部署、県警等と連携した広報活動
    - ・ワークショップ実施地域における危険箇所共有
    - ・事業レビュー、世論調査の実施
    - ・事故原因分析、地域別の事故に対する意識等分析

#### Action (改善)

- 事故原因分析に基づく安全対策の取組方法の検討
  - ・地域別の転落事故の傾向等を含めた広報活動の検討
  - ・事故の発生状況を考慮したワークショップ等のソフト対策の検討
- 新たな事故の分析について検討
  - ・これまでは、死亡事故の調査を行ってきたが、死亡事故に至る前の事故についての調査を検討

#### Check (点検・評価)

- 令和7年度の取組で評価できる事項
  - ・地域の合意に基づいたハード、セミハード対策の実施
  - ・関係する他部局と連携したソフト対策の実施
  - ・県民の意見の把握(事業レビュー、世論調査)
  - ・事故原因分析、地域別の意識の差の把握

PDCA  
サイクル

### (3) 令和8年度対応方針（案）【安全対策の課題の整理】

○今年度、各種調査、事故分析等を実施し、安全対策の課題が改めて判明した。各課題については、以下のとおり。

#### 安全対策の課題の整理

事項	調査結果	安全対策の課題
県政世論調査	○転落死亡事故が「高齢者が多い」「身近な小水路で発生」していることについて、	
	・若い世代「18、19歳」で知っているのは半数未満	課題① 若い世代への周知
	・転落死亡事故の多い60歳以上の2～3割が「知らない」と回答	課題② 高齢者世代への継続的な周知
	○転落死亡事故の未然防止には	
	・「転落防止柵等のハード対策」が最多回答	課題③ 継続的なハード対策等の実施
官民協働事業レビュー	・事故の要因分析を行うため、死亡に至る前の事故も把握すべきではないか	課題⑤ 転落事故（怪我）の情報収集、分析
	・ワークショップは効果的な取組みであるが、どこで行うかが重要	課題⑥ ワークショップの計画的な実施
農水部イベントアンケート	・用水路への転落経験者の約6割が、10代までの若い世代	課題① 若い世代への周知
	・転落経験の約85%が自宅周辺、通学路等の身近な場所	課題① 若い世代への周知
事故状況分析	・事故を分類化した結果、「生活事故」としての性格が見られ、地域別の傾向がある	課題⑦ 関係機関との連携強化
	・認知症が疑われる方の事故が一定割合で存在している	課題⑦ 関係機関との連携強化
	・事故発生件数が多いところの対応が必要	課題⑥ ワークショップの計画的な実施
アンケートの分析	・危険な経験をして、転落事故を話題にすることがない方の割合が約16%	課題⑥ ワークショップの計画的な実施
	・危険な経験のきっかけとなった動作は、県内で同様の傾向が見られた	課題① 若い世代への周知
		課題② 高齢者世代への継続的な周知

### (3) 令和8年度対応方針(案) 【安全対策の課題と令和8年度対応方針(案)】



○今年度の事故原因分析結果や事故状況、県民の意見等を踏まえ以下の対応方針としたい。

令和7年度の実施状況を踏まえた、令和8年度以降の対応方針(案)

項目	課題	対応方針(案)
<b>(1) ソフト対策</b>		
① 広報活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 転落事故について、若い世代の理解を深め、「孫世代から高齢世代への声かけ」強化が必要 <b>課題①、②、④</b></li> <li>・ 地域毎の事故の傾向等を共有し、居住地別の注意点について周知が必要 <b>課題④、⑦</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの広報に加え、地域別の事故の傾向等の事故原因分析で得た情報を織り込んだ広報を県公式XなどのSNSを活用し、<b>若い世代への広報を強化</b></li> <li>・ 事故分析により、<b>転落事故の傾向や原因等が判明したため、この結果を踏まえた広報活動を実施</b></li> </ul>
② ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークショップは、効果的な取り組みであるが、どこで実施するかが重要 <b>課題⑥</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>事故の発生状況や事故への意識が低いところにおけるワークショップの実施</b></li> </ul>
③ 事故原因分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの死亡事故の調査に加え、死亡に至る前の事故の分析が必要 <b>課題⑤</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>転落事故(怪我)の情報収集と、事故状況を整理と県民への周知</b></li> </ul>
<b>(2) ハード・セミハード対策 (引き続き、継続的に実施)</b>		
① ハード (転落防止柵等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故を未然に防止するため、転落防止柵等の設置を行うハード対策が効果的との回答 <b>課題③</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 転落防止柵等の整備については、維持管理と営農の観点から整備の要否を検討し、計画的に進めるとともに必要な予算を確保</li> </ul>
② セミハード (視認性向上対策等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークショップを通じた身近に潜む危険箇所の掘り起こし <b>課題③、⑥</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域内での合意形成を踏まえ、スピード感のあるセミハード対策の実施</li> </ul>
<b>(3) 連携強化</b>		
広報等における連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若い世代や高齢者の転落事故を防止するために関係機関と連携した広報活動が必要 <b>課題①、②、④、⑦</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>子どもとその保護者、若い世代への広報活動(広報活動、学校SNS等)について、学校関係機関等と協議</b></li> <li>・ <b>認知症の周りの方や将来の高齢者への広報活動等の実施</b></li> <li>・ <b>地域の危険箇所について、警察官と連携した合同点検の実施</b></li> </ul>